



松波氏 僕の妹も置き屋さんへ三味線と踊りを習いに行っていた。昔の子女は、芸奴さんに行儀作法を習っていた。

杉山氏 機屋さんもたくさんあったよね!

松波氏 家から小学校へ行くまで、織り機の音が絶えたことがなかった。

杉山氏 昭和21年には、昭和天皇が岐阜地方に視察にみえ、岐阜工業高校(旧岐阜県工業試験場本館)に宿泊された。笠松はすごい町だと思った。夏には、木曽川で、ボート・ヨットで遊んだのもいい思い出です。

町長 往時と比べると、今の笠松は少し元気がない。やはり車社会になって、商店街の役割が変わりつつあるのも影響しているのかもしれないね。

松波氏 本町通りには、いろいろなお店があって何でも買えた。それが近くに大型商業施設ができて、お客さんが流れてしまった。全国的にそのような傾向がある。

これからの笠松への思い

松波氏 これからは、大型店にはない笠松でしか買えない特別な商品があるお店がほしいですね。

町長 笠松でしか手に入らない、「オンリーワン」のものと
言えばちょうど、菓子工業組合の皆さんが笠松隕石にちな
んだ「隕石最中」を商品化しようと頑張っています。

杉山氏 東京の吉祥寺のように若い人からお年寄りまでも
が楽しめるおしゃれなまちづくりをしたらどうでしょうか。

町長 なるほど、お年寄りは昔を思い出して元気になれる、若い人はレトロな雰囲気を感じて「笠松って意外と面白いね」と話題になったら全国からお客さんが来ていただけるかもしれませんね。

松波氏 今は、後継者が外へ出て戻って来ない。これをどうにかしないといけない。

杉山氏 昭和8年に岐阜商業高等学校が甲子園で優勝している。このメンバーのうち4、5人が笠松町出身者でした。テニスや野球など、スポーツにも力を入れてほしい。

町長 笠松と言えば木曽川。昔は川湊の町として有名でした。

杉山氏・松波氏 笠松湊には70数隻の船があった。その船は反物(織物)をいっぱい積んで桑名まで行く。桑名からの荷物を荷揚げする人もたくさんいた。木曽川橋近くには灯台もあった。笠松の町は、湊のおかげで本当ににぎやかだった。

町長 川を生かした地域おこしとして、カヌーやボート、キャンプなど、アウトドライフの拠点としての活用を民間の方々と一緒に考えています。

若者へのエール

町長 最後に今、コロナ禍で、先行きが見えずに不安になっている若い人
たちに向けて人生の大先輩として、アドバイスやエールをお願いします。

松波氏 なんでもいいから興味を持つべきだ。平均的では発展がない。

杉山氏 失敗を恐れず、チャレンジしてほしい。今の若い人は、守りに入っ
ている。優等生が多過ぎる。『果敢に挑め』と言いたい。

町長 私もその言葉を胸に、果敢に新しいまちづくりにチャレンジしてい
きます。お二人のご健勝とご活躍を祈念いたします。本日はありがとうござ
いしました。

